

わたしのひいおばあちゃん

小 二

わたしのひいおばあちゃんは、とても年をとったので、左耳が聞こえません。いつもひいおばあちゃんの右耳の方で、みんなが話をするようにしています。わたしも、ひいおばあちゃんのことです。わたしの、話をする時には、右耳の方で話しかけるようにしています。

ひいおばあちゃんの左耳が聞こえないことがわかっていても、たまに右耳の方で話をするのをわすれたり、小さい声で話してしまったりすることがあります。そんなとき、ひいおばあちゃん

んはちよっとこまったような顔をします。わたしは、ひいおばあちゃんと一緒にいても気もちよく話せたらいいなと思います。

ひいおばあちゃんを見てみると、耳がふつうに聞こえる人よりも、一生けんめい話を聞こうとしていることがわかります。だから、左耳のふ自ゆうなひいおばあちゃんが、なるべく声やいみがわかるようなくふうをします。たとえば、右耳の方で大きい声で話したり、わたしの手や体をつかっている感じがしたつたわるようにしたりします。

ひいおばあちゃんにとって、左耳が聞こえないのは、大へんだと思っています。でも、わたしたちがひいおばあちゃんの気もちになつて、聞こえる

ように話せば、ひいおばあちゃんはその
んなにこまることがないと思います。
これから、ひいおばあちゃんと楽し
く話をしたいと思います。